



住みたいふるさととみや創生総合戦略(概要版)

人口ビジョン

(2060年を視野)

人口の現状分析

- ・将来人口の推計
- ・合計特殊出生率のシミュレーション
- ・国県等のデータの活用(地域経済分析システム、アンケート調査結果等)
- ・市独自の調査・分析

人口の将来展望

【位置づけ】

- (1) 人口ビジョンを踏まえるとともに、市第1次総合計画重点プロジェクト「定住促進につながる住みよいまちづくり」と連動
- (2) 国・県の総合戦略を踏まえるとともに、本市の実情を勘案

【計画期間】

平成27年度(2015年度)から平成31年度(2019年度)までの5年間

【進行管理】

総合戦略の推進にあたっては、事業の量ではなく質を重視し、レバレッジ効果のある事業を優先的に実施する。また、基本目標にはKGI(重要目標達成指標)、具体的施策にはKPI(重要業績評価指標)をそれぞれ設定し、事業のスクラップアンドビルドによる進行管理(PDCAサイクル)を行う。

【基本的視点】

若者をはじめ、子どもから高齢者まで、全ての市民が「自分の住むまちが日本一」と心から思える「住みよさ日本一のまち」を目指しながら、「住みたいふるさととみや」を創生し、人口増加を図る。

- (1) 高いポテンシャルを活かした定住・移住の促進
- (2) 市民のライフステージを意識した希望の実現
- (3) 賑わいのある持続可能な「ひと」と「地域」の創造

基本目標

I もとみやの魅力高め 住みたくなるまちをつくる

(主なKGI) 社会動態(純移動数)の増加: 1,300人以上、個人住民税(所得割)の増加: 1,140百万円以上

II 市民の希望をかなえ 安心して豊かな暮らしを実現する

(主なKGI) 自然動態(合計特殊出生率)の増加: 1.70以上、要介護の認定を受けていない高齢者の割合: 85.0%以上

III 絆で結び 活気と笑顔あふれる 住みよいまちをつくる

(主なKGI) 元気もとみやトライアングルでの交流人口の増加: 290,000人以上、地域公共交通機関利用者数の増加: 78,000人以上

基本的方向と具体的施策

(1) 定住・移住の促進

- ① 住まいの支援及び情報発信
- ② 住まいの受け皿づくり
- ③ UIRターンの促進

(2) 定住・移住に不可欠な「しごと」の創出

- ① 就職・創業等の支援
- ② 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進
- ③ 企業誘致の推進
- ④ 既存企業間等の連携及び支援

(3) 定住を支える「ひと・もの」の交流の推進

- ① 観光資源の活用
- ② 持続可能な農村の振興
- ③ 既存特産物の活用と新たな商品開発
- ④ 地域内経済循環の仕組みの構築

(1) ライフステージを通じた切れ目のない支援

- ① 結婚、出産、子育て支援
- ② 高齢者支援
- ③ 障がい者支援

(2) 全市民が健やかに安心して暮らせるまちづくり

- ① 心と体の健康づくり
- ② 医療体制の充実と支援

(1) ひと、地域、都市間等のつながりの強化

- ① 地域を支えるひとづくりの推進
- ② 地域コミュニティ活性化の推進
- ③ 都市間等交流の推進

(2) 利便性の高い持続可能なまちづくり

- ① コンパクトなまちを活かした環境の整備
- ② 地域間をつなぎ生活を支える公共交通網の最適化と持続可能な運行
- ③ 既存ストックのマネジメント強化